



# Marianna Angels

2014.September  
マリアンナエンジェルス通信 Vol.12  
発行 聖マリアンナ医科大学ナースサポートセンター  
〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生 2-16-1  
TEL 044-977-8111(代)  
http://www.marianna-u.ac.jp/hospital/  
年 2 回発行



## 多職種のスぺシャリストと連携協力し、奮闘するナースたち!

M.A通信 編集部  
Special Report!

最適な医療提供に、チーム医療の中心的存在の看護師。4 病院のチーム医療の現場に密着しました!!!

### 大学病院

### 糖尿病センター 代謝内分泌内科・チーム医療

#### 患者さんの不安を受けとめて

(金井 渚さん) (2009(平成21)年4月入職) 勤務歴5年

金井さんの所属するチームは、医師、薬剤師、栄養士、そして看護師の計8名前後でカンファレンスを実施して、各々の視点から患者さんのセルフケア能力をアセスメントし、その患者さんに適した治療とケアを話し合っている。「看護師は話し合いが円滑に進むようにコーディネーターを務めます」と金井さん。そして、スタッフの連携を強めるため、看護の立場から「患者さんの疾病に対する思い、治療内容の理解度を把握し、不足している知識や技術の習得ができるよう、スタッフへの情報提供に力を入れている」という。自らは専門性を高めるため、糖尿病学会や糖尿病療養指導士の院外学習へ積極的に参加している。また、糖尿病は慢性期疾患であるため、疾患だけに視点を捉われず、患者さんとのコミュニケーションが最も大切なことを後輩看護師に説明している。例えば、患者さんが「余生をどう過ごしていきたいのか」、患者さんにとっての「生き甲斐がどんなことなのか」を意識しながら患者さんに寄り添うことだ。患者さんの意識レベルが低下した際も出来る限り話をし、声をかける。そして、ご家族から「看護師さんが声をかけると穏やかな顔に見える」「安心して自宅で休める」などと声をかけていただくとき、終末期医療の奥深さを感じるという。最後に、「退院後の継続看護がスムーズになるよう、外来看護師だけでなく、メディカルサポートセンターとの連携やケアマネジャーの病棟カンファレンスへの参加も積極的に行っていきたい」と締めくくった。



### 東横病院

### 消化器チーム医療

#### 看護師として、専門的に意見が言えるように

(桜井 智行さん) (2009(平成21)年入職) 勤務歴5年

チーム医療の目的・目指すものは、多職種の医療人が一人の患者さんを専門的に、いろいろな角度から見て最善を導き出すことで、「それには、患者さんを中心としたチーム医療が理想だと思います」と桜井さんは強調する。



消化器チーム医療は、医師・薬剤師・栄養士・リハビリ・ソーシャルワーカー・クラーク・看護助手・清掃の方で構成され、退院へ向けての援助活動の中での看護師の役割は、各職種間の調整役である。さらに、チームの連携強化を図るためには、「患者さんの身近にいる看護師としては、病棟での患者さんの状況をただしく伝えること」だという。また、看護師としての専門性を高めるため、桜井さん自身は「職種の壁を越えて栄養サポートする多職種のチームである NST(栄養サポートチーム)に興味があり、いま勉強中」。

そして、後輩の看護師には、患者さんや他のスタッフに対して思いやりを持ち、視野を広く持てるようになってもらいたいとし、「心強く、尊敬できるプリセプターや同期との出会いを大切にしたい」と願っている。これからの自分の目標は、「多職種カンファレンスなどで看護師として専門的に意見が言えるようになること」を課題としていた。

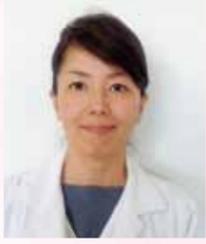
### 横浜市西部病院

### 看護部・栄養サポートチーム

#### 栄養療法の重要性と楽しさを全看護師に伝えたい

(森 みさ子さん) (1990(平成2)年4月入職) 勤務歴24年

チーム医療の目的は「それぞれの専門的な能力を発揮して、最善の医療を提供して『その人らしさ』を支えること」と「そのプロセスを通して一人一人が専門職として自律すること」と森さんは強調している。所属するNST専任チームは医師、薬剤師、管理栄養士、看護師で構成され、入院中の患者さんへの栄養アセスメント・プラン提案・フォローはじめ、委員会運営、栄養関連マニュアルの整備、勉強会の運営など、広範な活動を行っている。その中で看護師の役割は「患者の声をチームに届けること」だという。そしてチーム連携強化のためには「それぞれの職種の考えを尊重する」ようにしているという。



さらに、専門性を高めるために「年に1回以上の学会報告と、関連セミナーや研究会に参加する。また、執筆や講義依頼などは知識を整理して最新の知見を学習する機会にもなるので、可能な限り引き受けようとしている」などの努力をしている。

これからの目標は「一人でも多くの患者が『美味しく』たべられるように、全国の看護師に栄養療法の重要性や楽しさを伝えたい」と大きな夢を披露してくれた。

### 川崎市立多摩病院

### 退院調整リンクナース会

#### 医療スタッフと患者ご家族との架け橋に

(浅水 翔太さん) (2009(平成21)年4月入職) 勤務歴5年

患者さんやそのご家族に一番近い存在である看護師として各医療スタッフとご家族との架け橋となるよう毎日奔走しているという浅水さんは、入職3年目に発足した退院調整リンクナース会に所属している。同会では各病棟からのナース一人が医療相談センターの看護師・SW、外来看護師とともに活動している。そして、各病棟スタッフへのリンクナースの働きかけにより率先してご家族と関わるようにすることで、退院支援や退院調整への意識は徐々に高まってきているという。現に、「私の病棟では情報の共有や整理のためにショートカンファレンスを行い、病棟独自の情報シートも作成しました。地域の医療・福祉スタッフと事例検討を行い、困っている事や疑問に思っている事などの情報を共有し病棟へフィードバックしています」と浅水さんは、実績を次々と挙げた。今でも鮮明に憶えている肺がんのターミナル患者さんのこと。「本人もご家族も自宅に帰りたいと切望され、早期から退院支援に取り組み、実現できました。自宅に帰れた患者さんは、ご家族に見守られながら息を引き取りました。後日、病棟までご家族がいらっやして、感謝されたときは『少しでも力になれたかな。こういうケースをたくさん作れるように頑張ろう』と思った。そして、『今後、『病院での医療』から『在宅や地域での医療』へシフトし、より退院支援・調整が重要になってきます』と付け加えた。



## 私の病院自慢

### 多職種連携で退院支援

メディカルサポートセンター相談部門では、看護師とソーシャルワーカー(以下SW)が協働して患者・家族の相談支援を行っています。相談内容はあらゆる分野において、複雑・多様化しているため、看護師だけ、あるいはSWだけという支援ではなくチームとしての支援が必要となってきています。「転院だからSW」、「自宅退院だから看護師」と支援職種を決定するのではなく、多職種のアセスメントによって担当者を決定し、必要に応じ支援の途中でも看護師とSWが連携し、途中からでも多職種介入できる体制になっています。職種の枠にとらわれず専門性をより発揮できるシステム作りを行っているわけです。

メディカルサポートセンター 看護相談 師長 保科 かおり



### 大学病院



### 現場の声を大切に、働きやすい職場をつくります

これまでの新入職者研修「急変時の対応」に代わり、今年度よりAHA(アメリカ心臓協会)BLSヘルスケアプロバイダーコースの受講が必須研修となりました。みなが同じスキルを修得しチームの一員として救命処置を行えるようになるのと同時に、個人の資格取得にもなります。院内外にいるBLSインストラクターが講師となり受講後のサポートも紹介しています。インストラクター取得も可能ですので、ぜひ、チャレンジしてください。

周産期センター母性部門 副師長 山本 亜希



### 西部



### 本マグロの食べ尽くし

7月25日午後5時30分、カラコン〜ベルの音と威勢のいい声で「へい、いらっしゃい・いらっしゃい」本マグロの解体ショーのはじまりである。今年の納涼祭は35Kg本マグロのにぎり食べ放題で、赤身・中トロ・大トロ・中落ちとマグロづくし・・・1本食べ尽くしました。みんなお腹いっぱい食べて満足としあわせの時間でした。猛暑を乗りきる力をつけ、これからがんばります・・・!!



### 東横



サービス向上委員会

### 健康で楽しく働ける環境づくりで能力を最大限に引き出す



### 雑誌「ナース・ビジネス」の巻頭記事で多摩病院看護部が紹介されました!!

多摩病院の自慢は病院の雰囲気が良いことです。師長達の顔ぶれを見て分かる通り、みんな美人で光り輝いています。「良き家庭には良き子供が育つ」と言われますが、病院の中も同じだと思います。優しさの中にも厳しさを持って卒後教育を行い、「3年間で一人前の看護師になるように」大切に育てることがモットーです。その証明は、病院機能評価で86項目中S(秀でている)5項目、A(適切に行われている)74項目、B(一定の水準に達している)7項目という高評価に示されています。

看護部長 林 芳子

### 多摩



西部病院

# 小児病棟を「こどもセンター」に名称変更!

## ～さらに充実した医療を提供～

平成26年度4月より、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院の小児系病棟は、「こどもセンター」へ名称を変更しました。

当院は第3次救急医療病院に指定され、小児科医師が365日24時間常勤しています。また、小児科、小児外科を中心に各科が連携し、急性期疾患から慢性期疾患までを網羅した治療を行っています。さらに、平成24年より横浜市のメディカルショートステイシステムに協力病院として参画し、重症心身障害児の在宅医療推進にも力を注いでいます。

このような現状から、地域との医療連携をより強化し、充実した最良の医療を提供していきたいと考え、周辺地域での認知度向上を目指すためにも、「こどもセンター」と名称を変更し、センター化しました。看護師も「確かな根拠と技術をもつ学習集団になろう」をスローガンに、こどもの権利(生きる権利、守られる権利、育つ権利、参加する権利)を守り、健康の保持、増進ができることを目標に日々看護に取り組んでいます。

こどもセンター 副師長 金田 絵里



# マンガでGO!

## スペシャリスト全員集合!

### チーム医療は連携協力!



### その中でもナースは患者さんに一番近い存在!



### そしてミーティングで患者さんの情報を共有します



### 患者さんと医療スタッフの架け橋の役目なのです



多職種のスタッフと連携協力して行うチーム医療。それぞれの専門性を活かし患者さんに適した治療とケアを行っています。常に他のスタッフとコミュニケーションを図り、連携することが重要です。その中でもナースは患者さんとご家族に一番近い存在なので、他のスタッフに正確に情報提供すること大切な役割があります。患者さんと医療スタッフとの架け橋になって活躍するナースはチーム医療の要なのです。

大学病院

## 助産外来がスタート

大学病院では2014年の4月から助産外来を立ち上げました。助産外来では妊娠37週以降のローリスクの妊婦さんを対象に診察を行い、助産外来推進チームの7名を中心に4年目以上の助産師が担当しています。開設する前は多くの不安がありましたが、現在はとてもやりがいを感じています。担当したスタッフからは「ゆっくりと妊婦さんと関わることができ、距離が縮まって楽しい」という声が多く聞かれ、苦勞した甲斐があったなと喜びも感じています。また、妊婦さんからは「病院じゃないみたいで、とてもリラックスできる」「助産師さんが自分に1時間も時間をかけてくれるなんて嬉しい」「出産に対する不安が解消できた」等の嬉しい言葉を頂き、日々の活力になっています。今後も助産診断及び技術の向上を目標に、妊婦さんに安心して出産を迎えていただけるよう全力でサポートし続けていきたいと思っています。



助産外来推進チーム 右前:リーダー大月

## がんばるナースマン登場! 4

### 目標をもって、前に踏み出そう

桜井 智行 東横病院 3階病棟



男性看護師はまだ少ないですが、「患者さんから男の人も必要よね」と言われることがあります。また少ないせいか、患者さんに顔や名前を覚えてもらえることも多いです。いい意味でも、悪い意味でもすぐに覚えてもらっているので、日々、誠実に対応するように心がけています。

配属になった病棟に、男性看護師がひとりだったとしても、院内に他の男性看護師がいるので男子同士すぐに仲良くなれるはず。聖マリアンナ医科大学4病棟の先輩は、とても優しく、時々厳しく、とても熱心に指導してくれます。1年目は大変かと思いますが、日々コツコツと続けていくと、少しずつ仕事を任せられるようになります。

看護師として、成長していく上では男性女性関係なく、日々目標をもって、誠実に、そして、自分から一歩前に踏み出してください。そこに男女の差はほとんどないとおもいます。男性看護師のよさを発揮するのは自分次第です。ぜひ、聖マリアンナ医科大学4病棟と一緒に働きましょう。

## 2014年大学病院インターンシップ報告



看護部 副部長 キャリア開発担当 黒田 悦子

夏季インターンシップが8月5日からスタートし(全8回)、現在2回目を終了したところです。参加者は、最終学年から1学年の16名でした。9:00～オリエンテーションを行い、本館看護部長から病院について説明後、希望のセクションでの研修です。師長が病棟特徴や構造について語り、先輩看護師と一緒に日常生活援助の実施や

ケア・処置見学、カンファレンス見学を行いました。優しく親身な指導を受け、サポート体制が整っていることに学生は安心していました。初めての試みとして、インターンシップを体験し入職した1～3年目の看護師がメッセージを伝える時間を設けました。別2南の木村雄祐さん、NCU 廣田仁紀さんから、自分が大切にしている看護やストレス解消法について語っていただきました。学生同士でも情報交換が活発に行われ、学びの多い場になったとの感想が多く満足な様子でした。16:30に修了証を看護部長から手渡され1日を終えました。



## 勤務環境改善を目指して

### 新2交代制勤務(13時間夜勤)を試行して9か月が経ちました!

日本看護協会は「看護職の安全と健康が、患者の安全と健康を守る」という基本認識のもと、夜勤・交代制勤務の負担が軽減されることを願い、短時間夜勤を推進しております。そこで、川崎市立多摩病院では、平成25年12月から3病棟(消化器・一般外科/呼吸器・代謝内科/脳外科/脳神経内科)において、新2交代制勤務(13時間夜勤)を試行しています。試行3か月後のアンケートでは、「今一つリズムがつかめない」「業務改善が必要」「時間に余裕ができた」「長い夜勤勤務に戻るの不安」「やっとならなってきた」等、賛否の意見がありました。病棟では業務改善を重ねていますが、各自もプライベートタイムを有効に活用できるように生活リズムの見直しを進めています。10月に再度アンケートをとり、より働きやすい環境づくりに向けて方向性を決定する予定です。

川崎市立多摩病院  
看護部 副部長(総務担当)  
菊地 フキ子

勤務帯	勤務時間
日勤	8:30～17:00
遅日勤	12:00～20:30
夜勤	20:00～9:00



新2交代制勤務を導入している3病棟のスタッフ

## 掲示板

### 2014(後期)就職説明会・施設見学会

大学病院  
10:30～12:00

9/13(土)・27(土)  
10/25(土) 11/15(土)  
12/13(土)  
1/24(土) 2/28(土) 3/14(土)

東横病院  
10:30～12:00

9/13(土)・24(水)  
10/25(土)・29(水)  
11/8(土)・26(水) 12/13(土)  
1/10(土)・28(水)  
2/14(土)・25(水)  
3/14(土)・25(水)

横浜市西部病院  
10:30～12:00

9/13(土)  
10/25(土) 11/8(土)  
12/13(土)  
1/10(土)  
2/14(土)  
3/14(土)

川崎市立多摩病院  
9:30～11:30

9/13(土)  
10/25(土) 11/22(土)  
12/13(土) 1/24(土)  
2/14(土) 3/14(土)

携帯ホームページをご参照ください。 <http://mobile.marianna-u.ac.jp>

## 2015採用試験

実施月	実施日	実施月	実施日
9月	13(土)・27(土)	1月	24(土)
10月	25(土)	2月	28(土)
11月	15(土)	3月	14(土)
12月	13(土)		

現地会場・各会場 13:00～16:00

札幌	9月 6日(土)	名古屋	9月20日(土)
弘前	9月14日(日)	高知	9月27日(土)
八戸	9月 6日(土)	福岡	10月25日(土)
仙台	9月14日(日)	宮崎	10月4日(土)
	10月25日(土)	鹿児島	9月21日(日)

詳しくは人事課(聖マリアンナ医科大学)  
044-977-9316(直)まで。

## 大学病院リニューアル!

### 新病院テーマ 選ばれる病院 ～人・社会・未来から～

多様な高次機能を備え、人に優しく、働きやすく、社会の変化に柔軟に対応できる未来志向型病院へ